



佐伯史談

第三二号

「郷土史研究」誌
通算一四三号

昭和五十四年十二月十五日発行

佐伯史談會

事務局 佐伯市大字稻垣字龍護寺前

巻頭提言

佐伯史談會の使命

— 新年度に寄する期待 —

佐伯史談會
到會長 羽 柴 弘

佐伯史談會は約五百の会員、会友をもち、堅実を以て、けなから活発な研修活動をつづけ、次々と地域社会に奉仕寄与することを目指して来たつもりである。

「佐伯史談」も、貝才臣らしい姿ながら息長くつづけ、これはこれなりに大いにお役に立ち、その業績はまことに貴重である。單に記録・資料集として考えても、郷土資料の大森林である。幾本とて文庫もかたじけなく、用材、あるいはパルプ用材、分け入れはいくらでも貴重である。資料はとて然かたないだろう。

この集き上げや采ぎは半世紀の累積であり、その歴史もなってお互いの中で確信を得ている。この累積文字は、新年度さらには仲夏にしていかなく、その歴史も、昔は昔ながら、執筆寄稿者や読者の人々を越え、越す。お互いに大事に保存しようではないか。

さて次の敬題である。去る十一月主催した散歩資料展で、結論のようには話の史文学碑の建設である。

国木田散歩の文学碑は、今も城山の樹林の中に、山頂城跡に息づいてゐる。城山に登る人々多かれ少なかれ佐伯の自然と、城山の林の中に見る散歩の文学碑を、観察し、感じとらふと、その外意意外は少ないのではないかと、わが史談會が主唱して、市内外の各種文化団体に協力をいれ、一般市民の浄財をあつめて、「春の鳥」の一節を刻んだ文学碑を建てようというのである。

中根先生の敬碑がある。独歩の「城山」も出来た。矢野龍溪の詩を刻んだ頭影碑も建て、三の七舟近江の山頂が美しい。今が「独歩碑」は、歩の文学は偉大な。幸い城山を頂目、独歩

- 水子の主な採集
- 一 提督 佐伯史談會の使命 (羽柴弘)
 - 二 研究 佐伯史談と (川本宗氏、岡本宗彦)
 - 三 佐伯と国木田散歩 (山本茂)
 - 四 採集 珍らしい大森林 (見全書)
 - 五 注目 町指定文化財
 - 六 採集 異説佐伯惟治記
 - 七 異本 佐伯推治屋敷家系
 - 八 忠告 地志調査の北詰 (重野誠)
 - 九 回顧 三十二年 (羽柴弘)
 - 一〇 採集 初めまいて (並河沢)
 - 一一 採集 陸奥の復原と (片岡博)
 - 一二 採集 一尺の原 (上村清志)
 - 一三 採集 年自、西山を歩いて (羽柴弘)
 - 一四 採集 菅原井路花念碑 (山本茂)